

# 温故知新

最終回

アンモナイトと展示の状況

昨年七月号より連載してきた「温故知新」も最終回となりました。すべての郷土資料や関連する事項を掲載することはできませんでしたが、少しでも興味を持っていただければ幸いです。

過去の広報に目を通していただくと、「アンモナイトに魅せられた四十年」という記事があり、アンモナイト化石の採集者である川本甚吉さんのお話でした。

今から四十数年前の広報紙面には、NHK記者による川本さんへの同行取材記録や、採集したアンモナイト化石に寄せる川本甚吉さんの熱意が語られ、その紙面に掲載されているアンモナイト化石が、現在は旧浜猿狨小学校の展示室にもあり、きつと大切に保管されていたのではないのでしょうか。

甚吉さんはすでにお亡くなりになっただけで、ご子息の昌

一さんから一昨年に寄贈され、旧浜猿狨小学校に展示している化石を見てみると、数十年の時を経て、また猿狨村へ戻ってきたことに不思議な縁を感じさせてくれます。

取材から4年後の「広報さるふつ」には、『私のコーナー』として、川本さんがアンモナイトの魅力をお話してくれています。



コツコツと金づちをあてる川本さん

写真上 ■昭和 51年 7月号「アンモナイト収集取材記」より  
写真中 ■種名：ダメシテス他 4種密集 年代：中生代白亜紀カンパニアン期 8,360 万年前～7,210 万年前  
重さ 13.4kg  
写真下 ■昭和 55年 3月号 右下のアンモナイトは、旧浜猿狨小学校に展示されてる。写真中と同じもの。



## アンモナイトに魅せられた40年

川本甚吉さん（78歳・鬼志別）

私はとにかく一つのことには熱中する性分なんです。

若い頃は真冬の海に胸までつかりながらも、このアンモナイトを取ったし、家に帰ってきてからもたがねを片手に食事なんか忘れて夜が明けるまで、それこそ無心でカツカツと石をけずっていたんです。

ほとんどが東浦の海岸から集めたのですが、当時は海辺にゴロゴロころがっていて漁師の人なんかその上を踏んで歩いてたほどなんです。

この化石を見ながら一億年以上前のことを想像するのが楽しみなんです、でも今では孫の方がかわいくてかわいくて。

道内の人や本州の人、わざわざ見せてくれと来るんですよ。近く静岡県の方もいらっしゃるんですが、私はめったに人にはあげないですよ。大小あわせて、それこそ数えられないくらいあるが、一つ一つに苦勞や思い出があり、一つ一つに私の人生、私の命があると思ってるからなんです。



昨年十月から一ヶ月間公開した資料展示の状況についてご紹介いたします。四月以降は観覧希望の申し出を受けての対応となりますが、教育委員会では、五月～十月までの期間内に、地元の文化サークル団体や様々な活動をされている村民の皆様のご協力を頂きながら、企画展示やワークショップなどに取り組む予定です。企画展はもちろんですが、展示資料についても、多くの皆様に見ていただきたいと思っています。



資料展示室6  
寄贈されたアンモナイトや動物はく製など



資料展示室4  
インディギルカ号遭難事故などに関する資料など



資料展示室2  
くわや藁切り機など開拓当時の農業に関する資料



資料展示室7  
村内から出土した土器片や石器などの遺物



資料展示室5  
タコ箱、浮き子や八尺などの漁業に関する資料



資料展示室3  
火鉢、大工道具など日常生活に関する資料



資料展示室1  
馬具やのこぎりなど林業に関する資料